

# 草創期は屈指の強豪県



① 1～20回大会

信州の高校野球史をひもとくと、いまの夏の甲子園大会の草創期は全国屈指の強豪県だった。

1915（大正4）年、全国中等学校優勝野球大会の名称で始まった第1回は開催予告が開幕48日前で、県勢は参加できなかった。翌年から最初に校名を全国に知らしめたのは長野師範（現信州大教育学部）だ。

第2、3回は当時の地方予選の北陸大会、第4、5回は同じく予選の甲信大会で4年連続優勝し、全国大会に出場。第4回は、当時の全国大会会場だった兵庫・鳴尾球場に集結後、米騒



動で大会中止の憂き目にあったが、第5回は県勢で初めて決勝に進出し、準優勝を飾った。教員を養成する長野師範で

第3回大会の愛知一中戦で生還する長野師範の選手。ユニホームの胸マークは師範学校を意味する「NORMAL」だった。1917年8月、鳴尾球場、「大会50年史」から

は、1897（明治30）年の野球部創部より前から校内で野球に親しんでいた記録が残る。卒業生らは教師となり、県内各地の小中学校で野球の普及に努めた。先駆的な役割を担ったが、第17回の県予選を最後に大会から姿を消す。学校制度の違いから出場制限がなかったためだ。

その長野師範を第6回の甲信大会決勝で下し、全国への初陣を果たしたのが松本商（現松商学園）だ。全国出場2度目の第8回で初勝利を挙げて準決勝まで進み、当時全盛を誇った和歌山中（現桐蔭）に惜敗。これを礎に、甲子園が完成した第10回に準優勝、第13回は4強、そして第14回には決勝で平安中（京都、現龍谷大平安）を破って全国制覇を遂げる。

夏の甲子園での県勢優勝は、これが唯一だ。後にプロ野球で初の三冠王となる中島治康投手が全5試合で完投勝ちした。

- 歴代の選手権大会代表校
- | 回数 | 校名                            |
|----|-------------------------------|
| 1  | 飯田商、松本中、穂高農、赤穂、須坂園芸、須坂商、野沢    |
| 2  | 長野中・長野、松本市立中・松本市立、上田松尾・上田、上田西 |
| 3  | 伊那北、塚原・塚原青雲                   |
| 4  | 長野師範、諏訪蚕糸・岡谷工                 |
| 7  | 丸子実、佐久・佐久長聖                   |
| 8  | 長野商                           |
| 36 | 松本商・松商学園                      |

その松本商に強いライバル心を燃やして台頭したのが諏訪蚕糸（現岡谷工）だった。

地元で隆盛していた製糸業の支援で力をつけ、1928年9月、甲子園帰りの松本商に試合を申し入れて破る。自信をつけ、翌年の第15回で甲子園に初出場した。連続出場を果たした第16回では決勝に進出し、広島商に敗れた。その後、夏の甲子園で決勝を戦った県勢は1校もない。「強い松商が存在し、それを打倒して甲子園へ」という県内高校野球の一つの図式が形

成されていた。ここまで第4回を除く15大会で、決勝に進んだ延べ30校のうち県勢は4校（松本商は2度）。

北、篠ノ井、上田東、東海大、三、長野工、松代、長野日大、松本工、東京都大塩尻

〔注〕校名は出場当時。丸子実は今在の丸子修学館、長野師範は信州大学教育学部、塚原・塚原青雲は松本国際、松本市立中・松本市立は松本美須ヶヶ丘、飯田商は飯田OIDE長姫、松本中は松本深志、穂高農は穂高商、須坂園芸と須坂商はいずれも須坂創成、東海大は東海大諏訪。

兵庫の5校に次ぐ2位タイだった。こうした好成績は県内の野球のあり方に影響を与えた。実は第9回の23年から8年間、県立中等学校の多くは全国大会への道が閉ざされていた。過剰な野球熱を危惧した校長会が「待つた」をかけ、代わりの県内大会を開いていたからだ。私学の松本商や独自の判断で出場していた諏訪蚕糸の活躍が大きな要因となり、甲子園への道は第17回から解禁された。

第17、18回と連続出場したのが長野商。初陣の第11回から久々の夏甲子園だったが、2年連続で初戦を突破、第18回は8強入りし、伝統校としての足場を築いた。

7月7日開幕の第100回全国高校野球選手権記念長野大会（朝日新聞社、県高校野球連盟主催）に向けた連載「信州の夏100回」の第2部として、歴史編（5回）を木曜日と土曜日にお届けします。

## ■夏甲子園・歴代の県勢戦績（第1～20回大会）

回(年)	代表校	対戦校	結果
1(1915)	不参加		
2(16)	長野師範	市岡中	●2-6
3(17)	長野師範	愛知一中	○4-3
4(18)	長野師範	杵築中	●3-4
5(19)	長野師範	市岡中	○2-0
6(20)	松本商	小倉中	○1-0
7(21)	長野中	豊国中	●9-10
8(22)	松本商	竜ヶ崎中	○14-3
9(23)	新潟商が甲信越代表	北海中	○8-0
10(24)	松本商	和歌山中	●1-2
11(25)	長野商	台北商	○7-2
12(26)	新潟商が甲信越代表	松山商	○5-2
13(27)	松本商	鳥取一中	○9-3
14(28)	松本商	広島商	●0-3
15(29)	諏訪蚕糸	大連商	●2-5
16(30)	諏訪蚕糸	京城中	○8-1
17(31)	長野商	平安中	○6-0
18(32)	長野商	広陵中	●3-4
19(33)	松本商	広陵中	○3-2
20(34)	長野商	鹿児島商	○3-2
		愛知商	○5-0
		高松中	○3-0
		平安中	○3-1
		高松商	●0-1
		八戸中	○6-1
		松山商	○4-2
		平安中	○3-0
		広島商	●2-8
		大分商	○2-1
		小倉工	●2-5
		千葉中	○16-1
		遠野中	○6-0
		中京商	●2-7
		大正中	●0-4
		呉港中	●1-5

〔注〕第1～2回の球場は豊中、第3～9回は鳴尾、第10回から甲子園。丸数字は回数。

# 戦中・戦後 激動の歩み



## ② 21～40回大会

県勢唯一の全国優勝を飾るのに先駆け、伊那谷から初の甲子園出場で球史に残る。

翌年からは長野商と松本商（現松商学園）の競い合いが続



く。長野商は第25回で同校として歴代最高の4強入り、翌年は松本商が4強入りした。

37年に始まった日中戦争の戦局が深刻化した41年は、第27回の地方大会途中で文部省（当時）の通達が出て中止に。開幕前だった長野県は9月に県大会を突発的に開催。決勝で長野商が松本商に勝つ。12月、太平洋戦争が始まった。

翌42年は戦意高揚のために文部省などが主催した全国中等学校体育大会の1部門という異例中の掘選手11946年8月、西宮球場

の形となった。大会史からは外され、「幻の甲子園」と呼ばれる。松本商が出場した。43、44、45年は戦時一色。各校の野球部は活動停止を余儀なくされた。

5年間の空白を経て、敗戦から1年後の46年8月、大会は第28回として復活する。甲子園は連合国軍が接収中で使用できず、同じ兵庫県西宮市の西宮球場で開いた。松本市立中（現松本美須ヶ丘）が新風を起こして信越大会を制し、全国の初戦も突破した。

「中等野球」としては最後の大会となった47年の第29回、松本中（現松本深志）が宿願の全国出場を遂げる。尋常中と名乗っていた1896（明治29）年創部という県内最古の伝統校が、「あと1勝で全国」の苦杯3度という部史を塗り替えた。翌48年は学制改革で中等学校

が高等学校と改められた。この第30回に出場したのは穂高農（現穂高商）。第31回は松本市立が3年ぶりで出場し、再び初戦を突破する。

松商学園が復活するのは第32回。OBの胡桃沢清監督のもと、第36回まで信越大会で5連覇を達成した。この間、甲子園では勝ちに恵まれなかったが、対戦相手は第33回が平安（京都）、第36回は中京商（現中京大中京、愛知）と優勝校で、ともに1点差の惜敗だった。

その松商の連続出場を阻み、第37、38回に甲子園の土を踏んだのが伊那北だ。2年連続で初戦を突破。そのうち、第38回の静岡戦は大会史上初のナイター試合として知られる。大会初期の北陸大会、甲信大会、甲信越大会を経て、第17回から新潟勢との間で続いた信越大会は57年の第39回が最後。この年は上田松尾（現上田）が初出場。優勝候補の平安を初戦で下し、注目された。

第40回の記念大会では、本土復帰前の沖縄を含む47代表校が初めてそろった。長野県は翌年から地区大会が免除され、単独で代表を送れるようになった。

### ■夏甲子園・歴代の県勢戦績 (第21～40回大会)

回(年)	代表校	戦績
21(1935)	飯田商	●2-3 呉港中
22(36)	長野商	●4-27 静岡商
23(37)	長野商	○6-4 山形中 準々●0-9 中京商
24(38)	松本商	●0-5 岐阜商
25(39)	長野商	○2-1 東邦商 ○4-2 関西学院中 準々○3-2 早稲田実 準決●2-3 下関商
26(40)	松本商	○3-2 徳島商 ○2-0 下関商 準々○7-3 日大三中 準決●1-3 海草中
27(41)	戦時下、予選中に中止	
28(42)	松本市立中	○7-2 城東中 準々●2-3 東京高師付中
29(43)	松本中	●0-10 成田中
30(44)	穂高農	●2-4 函館工
31(45)	松本市立	○2-1 臼杵 準々●1-2 湘南
32(50)	松商学園	●3-5 済々黉
33(51)	松商学園	●0-1 平安
34(52)	松商学園	●0-3 柳井商工
35(53)	松商学園	●1-4 鳥取西
36(54)	松商学園	●6-7 中京商
37(55)	伊那北	○1-0 新庄北 ○1-4 城東
38(56)	伊那北	○4-1 静岡条 ●2-3 西条
39(57)	上田松尾	○3-1 平安 準々●0-5 広島商
40(58)	松商学園	●5-8 八女

〈注〉校名は出場当時。飯田商は現在の飯田OIDE長姫、松本商は松商学園、松本市立中・松本市立は松本美須ヶ丘、松本中は松本深志、穂高農は穂高商、上田松尾は上田。丸数字は回戦。

(山田雄一)

# 新鋭台頭顔ぶれ多彩に



## ③ 41～60回大会

は塚原（現松本国際）、さらに第52回の須坂園芸と第53回の須坂商（ともに現須坂創成）、そして第56回の野沢北と新しい顔ぶれがひしめいている。



特に高い注目を集めたのは丸子実だった。初出場の第47回で2勝し、いきなり8強に食い込んでいた。夏の甲子園で県勢の2勝は戦後初めてのことだった。その後をたどっても、91年の第73回に松商学園が3勝するまで一例もないだけに、躍進といえた。

丸子実には第54、55回に連続出場するなど、松商学園とともに県内のリーダー的な存在になっていた。

第47回大会の天理（奈良）戦で九回に逆転勝ちした丸子実。3点目の生還をする宮崎選手（1965年8月、阪神甲子園球場）

それ以外の初出場5校は初戦突破がかなわなかった。しかし、赤穂、塚原、須坂商の3校は1点差の好勝負を演じた。とりわけ、塚原は準優勝する松山商（愛媛）に0-1という善戦だった。

また、古豪の振り返りも光った。第44回の長野は長野中時代から41年ぶり、第50回の岡谷工は諏訪蚕糸時代から38年ぶりに夏の晴れ舞台へ再登場を果たした。

このうち、長野は創部が1899（明治32）年で、現存校の中では松本深志（旧松本中）に次ぎ、諏訪清陵（旧諏訪中）とともに2番目に早い。校名が長野北だった第31、32回と現校名での第42回の3度、「甲子園まであと1勝」で夢を断られた先輩たちの無念を晴らした。

岡谷工は第1回の1915

（大正4）年創部で、いわば大会と同年。甲子園で準優勝した第16回（30年）以来の出場だったが、初陣旋風で4強入りした興南（沖縄）に2点差で敗れている。

一方、甲子園常連校のイメージが全国の野球ファンに定着していた松商学園。第41回で同校の初戦連敗記録を「6」で止めたあとは、第45、46、49、51回といずれも初戦を突破している。「2勝の壁」の克服こそ果たせずにはいたが、甲子園で負け続けていた時代とは一線を画す戦績だった。

中でも第51回は、三笠（南北海道）を相手に降旗英行投手が大会史上16人目のノーヒットノーラン（無安打無得点試合）を達成して話題となった。

しかし、第52回から5年連続で代表を逃すと、出場が20回を数えた第57回からは、6年連続で甲子園切符をつかみながら勝てない苦境に突入する。

その間、第58回は準優勝するPL学園（大阪）に0-1で競り合う惜しい試合だった。その後、第59、60回も無得点で、勝負の厳しさを3年連続で味わう結果となった。（山田雄一）

### ■夏甲子園・歴代の県勢戦績（第41～60回大会）

- 回(年)代表校
- 41(1959)松商学園
    - ① ○5-4 松阪商
    - ② ●3-5 西条
  - 42(60)赤穂
    - ② ●1-2 早稲田実
  - 43(61)伊那北
    - ① ●0-2 東北
  - 44(62)長野
    - ① ●0-3 慶応
  - 45(63)松商学園
    - ① ○3-2 京都商
    - ② ●0-5 下関商
  - 46(64)松商学園
    - ① ○6-0 千葉商
    - ② ●2-5 岐阜卓商
  - 47(65)丸子実
    - ① ○3-1 天理
    - ② ○11-3 佐賀商
    - 準々 ●0-3 銚子商
  - 48(66)塚原
    - ① ●0-1 松山商
  - 49(67)松商学園
    - ① ○3-0 早稲
    - ② ●0-2 広陵
  - 50(68)岡谷工
    - ① ●3-5 興南
  - 51(69)松商学園
    - ① ○14-0 三笠
    - ② ●1-9 玉島商
  - 52(70)須坂園芸
    - ① ●0-13 平安
  - 53(71)須坂商
    - ① ●3-4 今治西
  - 54(72)丸子実
    - ① ●6-7 高松一
  - 55(73)丸子実
    - ① ○9-4 箕島
    - ② ●0-5 今治西
  - 56(74)野沢北
    - ② ●0-9 佐伯鶴城
  - 57(75)松商学園
    - ② ●3-5 東海大相模
  - 58(76)松商学園
    - ② ●0-1 PL学園
  - 59(77)松商学園
    - ① ●0-7 福井商
  - 60(78)松商学園
    - ① ●0-6 天理

〈注〉校名は出場当時。丸子実は現在の丸子修学館、塚原は松本国際、須坂園芸と須坂商はともに須坂創成。丸数字は回数。

# 前半後半県勢に暗と明



## 4 61～80回大会

場となった岡谷工だ。初戦の2回戦で優勝経験校の津久見(大分)を撃破する。金丸久夫投手(のちにプロ野球ロッテ、故人)の好投が際立ち、諏訪蚕糸

時代の第16回で準優勝したとき以来の勝利となった。3回戦で都城商(宮崎)に敗れて8強入りは逃したものの、延長十二回での惜敗だった。

第64回の丸子実(現丸子修学館)は春日丘(大阪)に1点差。続く第65回で第25回以来の出場を果たした長野商は、延長十回の投手戦で興南(沖縄)に1-2。第70回に初出場した上田東もまた、優勝する広島商を相手に延長十回で3-4という

第74、75回と合わせて3年連続出場の松商学園を第76回の長野大会決勝で下して初出場したのが、佐久(現佐久長聖)だった。初陣とはいえ、チームを率いていた中村良隆監督は、丸子実や上田東で甲子園経験が豊富という強みがあった。初戦の2回戦で松崎幸二投手が敦賀気比(福井)を完封して波に乗ると、愛知、水戸商(茨城)と3勝を重ねて4強入りする。

1979年の第61回から第80回までの20大会を振り返れば、県勢は「暗の前半期」と「明の後半期」で、傾向がくつきりと異なる。

第61回の松商学園は準優勝する池田(徳島)に敗れ、翌年も勝利を得られなかった。長引く低迷にストップをかけたのが、第63回で13年ぶりの出



次の第64回から第72回まで県勢は初戦で9連敗している。第56回からの17大会で、初戦を突破したのは岡谷工ただ1校という戦績で、「甲子園で勝てない長野代表」が指摘される苦杯続きの時代だった。

ただし、9連敗の間にも見逃前年17年間で県勢唯一の初戦突破となった第63回大会の津久見(大分)戦で完投勝ちした岡谷工の金丸投手は1981年8月、阪神甲子園球場

エース上田佳範投手(現プロ野球DeNAコーチ)を擁して春の選抜大会で準優勝し、有力校と目された夏も快進撃で8強入り。これは県勢として第47回の丸子実以来であり、松商学園としては松本商時代に40年の第26回で4強入りして以来の躍進となった。

前後17年間で県勢唯一の初戦突破となった第63回大会の津久見(大分)戦で完投勝ちした岡谷工の金丸投手は1981年8月、阪神甲子園球場

校名が佐久長聖と変更された第77回も連続出場して初戦を突破した。その後、県内有数の実力校となっていく礎は、こうして築かれていった。

第78回の代表校は東海大三(現東海大諏訪)。大会史上初の「諏訪勢対決」となった決勝で諏訪清陵を下して夏の甲子園への初出場を果たしたが、優勝した松山商(愛媛)に及ばなかった。

### ■夏甲子園・歴代の県勢戦績 (第61～80回大会)

- 回(年)代表校
- 61(1979)松商学園
    - ② ● 2-9 池田
  - 62(80)松商学園
    - ① ● 0-2 高知商
  - 63(81)岡谷工
    - ② ○ 5-2 津久見
    - ③ ● 1-2 都城商
  - 64(82)丸子実
    - ① ● 2-3 春日丘
  - 65(83)長野商
    - ① ● 1-2 興南
  - 66(84)篠ノ井
    - ① ● 0-4 沖縄水産
  - 67(85)丸子実
    - ① ● 0-3 延岡商
  - 68(86)松商学園
    - ① ● 4-8 鹿児島商
  - 69(87)上田
    - ② ● 2-5 習志野
  - 70(88)上田東
    - ② ● 3-4 広島商
  - 71(89)丸子実
    - ① ● 3-10 上宮
  - 72(90)丸子実
    - ① ● 2-7 徳島商
  - 73(91)松商学園
    - ① ○ 6-2 岡山東商
    - ② ○ 8-3 八幡商
    - ③ ○ 4-3 四日市工
    - 準々 ● 2-3 星稜
  - 74(92)松商学園
    - ① ● 0-5 近大付
  - 75(93)松商学園
    - ① ● 2-3 長崎日大
  - 76(94)佐久
    - ② ○ 5-0 敦賀気比
    - ③ ○ 5-3 愛知
    - 準々 ○ 2-1 水戸商
    - 準決 ● 2-3 佐賀商
  - 77(95)佐久長聖
    - ① ○ 4-2 長崎日大
    - ② ● 2-4 金足農
  - 78(96)東海大三
    - ① ● 0-8 松山商
  - 79(97)松商学園
    - ① ● 3-4 西京
  - 80(98)佐久長聖
    - ① ● 2-3 佐賀学園
- 〈注〉校名は出場当時。丸子実は現在の丸子修学館、佐久は佐久長聖、東海大三は東海大諏訪。丸数字は回戦。

第74、75回と合わせて3年連続出場の松商学園を第76回の長野大会決勝で下して初出場したのが、佐久(現佐久長聖)だった。初陣とはいえ、チームを率いていた中村良隆監督は、丸子実や上田東で甲子園経験が豊富という強みがあった。初戦の2回戦で松崎幸二投手が敦賀気比(福井)を完封して波に乗ると、愛知、水戸商(茨城)と3勝を重ねて4強入りする。

# 初出場6校 活躍が光る



5完 81~100回大会

優勝経験校の作新学院（栃木）と天理（奈良）を連破して注目された。3回戦で優勝校の中京大中京（愛知）に敗れたものの、県勢の2勝は第82回の松商学園以来9年ぶり、その後は、どの代表校も「2勝の壁」を破れないでいる。

第88回の松代は倉吉北（鳥取）戦で終盤に追いつき、延長十一回にサヨナラ勝ち。初陣での勝ち名乗りは第76回の佐久（現佐久長聖）以来12年ぶりだった。

第83回の塚原青雲は、塚原時代の第48回以来35年ぶり2度目の出場で初勝利につなげた。部員17人のハンディを感じさせない結束力で八頭（鳥取）に競り勝ち、脚光を浴びた。第86回にも出場。創造学園大付、創造学園を経て今年度、松本国際に改称した。



作新学院戦の六回に逆転の右越え二塁打を放った長野日大の新村涼賢選手＝2009年8月、阪神甲子園球場

第92回の松本工は公立勢で直近の代表校。第93回の東京都大塩尻は、前身の信州工、武蔵

工大二の時代からの強豪校が、初めて夢をかなえた。第94回から第98回までの5年は、ともに東信私学の佐久長聖と上田西がしのぎを削り、交互に代表となった。佐久長聖は第94回で、第84回で初戦を突破して以来の夏甲子

園。初戦で作新学院に逆転負けしたが、第96回は寺沢星耶、両角優の両投手によるリレーで東海大甲府（山梨）に競り勝った。昨年の第99回まで長野大会で6年連続の決勝進出という安定ぶりが際立つ。

その佐久長聖を倒す目標を第95回と第97回の決勝で実現させた上田西。初出場のときこそ木更津総合（千葉）に逆転されて涙をのんだが、第97回は宮崎日大に3-0で快勝する。小柄な2年生エース草海光貴投手の完封は、第76回の佐久・松崎幸二投手が敦賀気比（福井）戦で記録して以来、県勢として21年ぶりとなる快投だった。

この19年間で最多の出場は、やはり松商学園で6回に上る。ただし、第89、90回に連続出場したあとの8年間は「夏の空白」が続いた。かつて最強を誇った同校では、前例のない長さだった。

これを断ち切ったのが、昨夏の躍進だ。第98回の長野大会決勝で敗れた佐久長聖に1年後の決勝で雪辱し、通算36回目の出場。1回戦で土浦日大（茨城）に12-3で大勝した。青柳真珠投手の完投勝ちが記憶に新しい。

そして、この夏は第100回。節目の大会で夢舞台に姿を見せるのは、伝統校か、それとも新鋭校か。（山田雄一）

1999年の第81回から昨までの延べ19代表校の顔ぶれを見ると、実数で9校が夏の甲子園の土を踏んでいる。そのうち初出場は、第85回の長野工、第88回の松代、第91回の長野日大、第92回の松本工、第93回の東京都大塩尻、第95回の上田西と6校を数える。第91、93回は3大会連続で初陣というまれに見る新鮮さで、甲子園への道の多様化を印象づけた。

中でも第91回の長野日大は、

## ■夏甲子園・歴代の県勢戦績 (第81~100回大会)

- | 回(年)     | 代表校         |
|----------|-------------|
| 81(1999) | 松商学園        |
| ②        | ●3-6 尽誠学園   |
| 82(2000) | 松商学園        |
| ①        | ○14-4 岩国    |
| ②        | ○5-4 宇都宮学園  |
| ③        | ●3-11 樟南    |
| 83(01)   | 塚原青雲        |
| ②        | ○8-7 八頭     |
| ③        | ●1-11 近江    |
| 84(02)   | 佐久長聖        |
| ②        | ○11-7 東山    |
| ③        | ●5-12 尽誠学園  |
| 85(03)   | 長野工         |
| ②        | ●1-6 智弁和歌山  |
| 86(04)   | 塚原青雲        |
| ①        | ●1-3 佐土原    |
| 87(05)   | 松商学園        |
| ①        | ●1-4 沖縄尚学   |
| 88(06)   | 松代          |
| ①        | ○7-6 倉吉北    |
| ②        | ●3-5 八重山商工  |
| 89(07)   | 松商学園        |
| ①        | ●3-9 近江     |
| 90(08)   | 松商学園        |
| ①        | ●4-6 慶応     |
| 91(09)   | 長野日大        |
| ①        | ○10-8 作新学院  |
| ②        | ○7-6 天理     |
| ③        | ●5-15 中京大中京 |
| 92(10)   | 松本工         |
| ①        | ●1-14 九州学院  |
| 93(11)   | 東京都大塩尻      |
| ②        | ●3-6 明豊     |
| 94(12)   | 佐久長聖        |
| ①        | ●5-9 作新学院   |
| 95(13)   | 上田西         |
| ①        | ●5-7 木更津総合  |
| 96(14)   | 佐久長聖        |
| ①        | ○3-1 東海大甲府  |
| ②        | ●2-4 聖光学院   |
| 97(15)   | 上田西         |
| ①        | ○3-0 宮崎日大   |
| ②        | ●6-10 作新学院  |
| 98(16)   | 佐久長聖        |
| ①        | ●2-3 鳴門     |
| 99(17)   | 松商学園        |
| ①        | ○12-3 土浦日大  |
| ②        | ●3-6 盛岡大付   |
| 100(18)  | ?           |

〈注〉校名は出場当時。塚原青雲は現在の松本国際。丸数字は回戦。